

合併によるスケールメリットを生かした「ごみ処理施設の整備」(愛媛県今治市)

【取組概要】

循環型社会の構築を目指し、老朽化した既存の4つのごみ処理施設を1施設に集約して、最新の技術と防災拠点機能を導入した新しいごみ処理施設(バリクリーン)を整備した。

人口 161,861人(H30.1.1現在)

担当 リサイクル推進課
(クリーンセンター管理事務所)

【取組の効果】

最新の技術を導入したごみ処理施設、体験体感ができる環境啓発施設、避難所機能を有した防災拠点機能を兼ね備え、従来の迷惑施設のイメージを一新した、市民に親しまれるごみ処理施設が誕生した。開設後、地域の住民からは「ごみ処理施設に対するイメージが変わった」、「防災機能も備わっており頼もしい」など歓迎の声が上がっている。

さらに、コスト面(予算ベース)において、施設集約前と比較して、トータルコストで約378百万円削減することが可能となった。また、余剰電力の売電収入も年間約140百万円を見込んでいる。



完成したバリクリーン(ドローン撮影)

【創意・工夫した点】

新施設はタービン発電機を備え、ごみ焼却時の熱エネルギーを電気エネルギーに変え、施設全体の電力を賄い、自立運転を可能とし、災害が発生しても安定した廃棄物の処理を継続することができる。また、併設する管理棟は、320人の避難者の収容が可能な設備及び7日分の備蓄品を備えており、避難所としての機能を有する防災拠点として位置づけた。

【他団体へのアドバイス】

ごみ処理施設の建設では、地域住民との合意形成が重要となる。そのため、ごみ処理機能だけではなく防災拠点や環境啓発体験型学習施設といった、地域にとってメリットのある機能を持たせることで、従来の迷惑施設としてのイメージを一新し、地域の住民にも親しみを感じていただき、歓迎してもらえるような施設整備を推進していくことが大切であると考えます。



イベント等による施設開放(イメージ)